

今日のキーワード 相撲ブーム再来！～景気とのカンケイ～

日経MJが6月7日に発表した『ヒット商品番付』によると、2017年上期は、東は「稀勢の里」、西は「ニンテンドースイッチ」が横綱となりました。「稀勢の里」は19年ぶりとなる日本出身の横綱で、若乃花と貴乃花による「若貴ブーム」以来となる相撲ブームが到来していると言われています。そこで今回は、相撲ブームが景気にもたらす影響を読み解いていきたいと思います。

ポイント1 新横綱が優勝した時は全て景気拡張局面 ケガをおしての逆転優勝に心を動かされたファンが急増

- 大相撲1月場所で稀勢の里が初優勝を果たし、19年ぶりに日本出身の横綱が誕生しました。稀勢の里は、優勝次点12回ながら優勝できずにいた勝負弱さを克服し、悲願の初優勝となりました。さらに、新横綱となった3月場所でもケガをしながら逆転優勝を飾る活躍をし、相撲ブームとなっています。新横綱の場所での優勝は、昭和33年から運用されている現行の15日制度では、大鵬（1961年11月）、隆の里（1983年9月）、貴乃花（1995年1月）に次いで4人目となり、いずれも景気が拡張局面の時にあたります。人々の期待にこたえて優勝することで、消費者マインド面から、景気にプラス効果があったと考えられるのではないのでしょうか。

ポイント2 懸賞本数は過去最高を更新 企業の広告費出費が堅調

- 大相撲には、企業が1本62,000円で懸賞をかけることができます。稀勢の里が新横綱となった3月場所では1,707本の懸賞が懸かり、地方場所としては最多を記録しました。5月場所では、稀勢の里は11日目から休場となってしまいましたが、懸賞本数は2,153本と初の2千本台となり、過去最高を更新しました。世界景気の拡大や円安などを背景に企業収益が改善しており、企業が広告費を出す余裕が出てきていると考えられます。2017年1-3月期の法人企業統計で、営業利益、経常利益ともに過去最高水準を更新したことも合致します。



今後の展開 人気力士のさらなる活躍が日本の景気を明るくする材料に

- 稀勢の里が昇進したことで、大相撲は2000年春以来17年ぶりの4横綱時代に突入しました。また、弟弟子の高安も大関に昇進し人気を博するなど、今後も大相撲フィーバーが続くと考えられます。人気力士の期待に応える活躍が、人々の気持ちを元気にし、息の長い景気拡張につながることを期待されます。

ここも
チェック! 2017年6月13日 5月の「街角の声」は2カ月連続で改善!
2017年6月 2日 法人企業統計（2017年1-3月期）収益力は85年以降の最高水準を更新

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。